



学校規模の適正化についての基本的な考え方

学校規模についての考え方



小学校

学年 **2 学級以上** を
目安とする



中学校

学年 **3 学級以上** を
目安とする

学級規模についての考え方

小学校・中学校ともに ▶ **1 学級の規模 20～30名**

※36名以上の学級が生じないように配慮し、大規模校では子ども一人一人に目が行き届くよう学級規模に配慮していきます。



学校配置の適正化についての基本的な考え方

通学区域の見直しについての考え方

通学区域の見直しは、通学時間や友人関係など多様な事情から、適切な学校に通わせることが出来るよう、通学区域の弾力的な扱いができるよう検討していきます。

通学区域の設定は、地域コミュニティのあり方と密接に関わっていることから、慎重に対応していきます。

学校の統合(再編)についての考え方

学校規模の適正化がこれまでに述べてきたような子どもの教育環境の向上のために必要である場合には、学校統合(再編)を含めてその方策を検討していきます。

その場合、通学距離や通学上の安全面に十分配慮し、子どもたちの教育環境の向上につながるよう、新しい学校づくりという考え方を基に行っていきます。

通学手段についての考え方

通学区域の見直しや学校統合(再編)を行うと、通学距離が遠くなり通学にこれまで以上の時間がかかるようになることが想定されます。それが子どもや保護者の過度の負担をもたらさないよう、スクールバスの運行など通学手段の保障について検討していきます。

